

附属学校が果たす役割に対する期待に関するアンケート調査

北海道教育大学特別支援教育プロジェクト報告

目的

附属小学校・ふじのめ学級合同開催による全道研究大会において、附属校が果たす役割に対する参加者の期待を調査するため、北海道教育大学附属学校への期待に関するアンケート調査を実施した。

方法

実施日 2018年7月

実施内容

参加者に550部を配布し、62部を回収、回収率は11.2%であった。アンケートは「とてもそう思う」「ややそう思う」「どちらでもない」「あまり思わない」「まったくそう思わない」の5件法で回答を得た。

なおアンケート内容については、資料に示した。

結果と考察

附属小が期待される役割については、「質の高い研究授業の展開」「新しい支援・指導の方法の開発」とでは「とてもそう思う」「ややそう思う」を合わせて9割を超えた。「附属校の役割」の項目では、「指導開発」「授業展開」「研修機能」に高い期待が見られた。

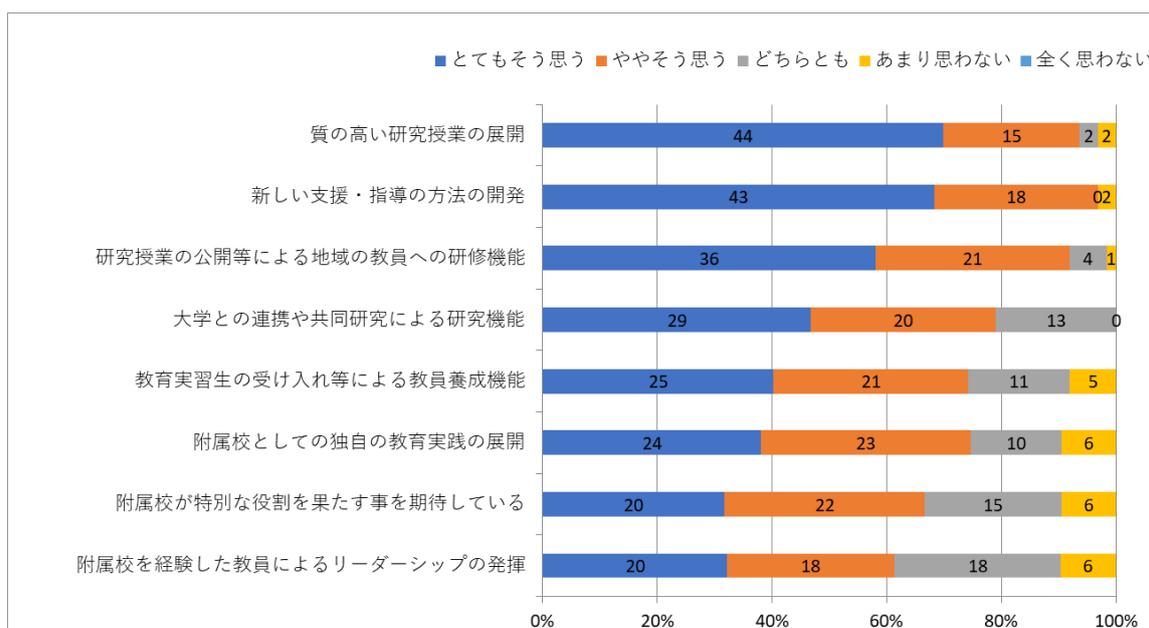


図1 あなたが考える附属校の役割とは何ですか

「附属校を経験した（経験する）教員には、どのような変化があるか」という項目に対しては、「勤務後に周囲からの期待が高まる」「教職能力全般における専門性が高まる」「大学との連携や共同研究を通し学びや気づきがある」に「とてもそう思う」「そう思う」の回答者が多かった。

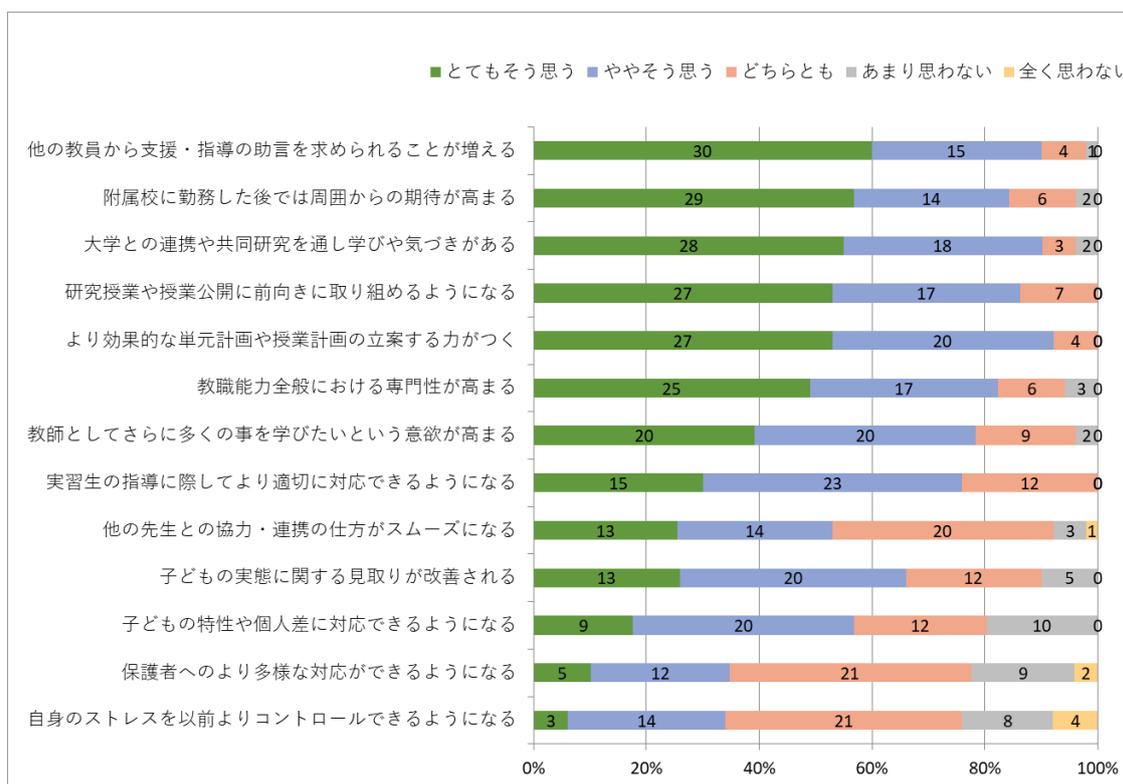


図2 附属校の勤務を経験した(経験する)教員には、どのような変化があると思いますか

全体として、附属校に対する期待では、「研究授業の公開棟による地域の教員への研修機能」「質の高い研究授業の展開」への期待が高かった一方で、「附属校としての独自の教育実践の展開」や「附属校としての独自の教育実践の展開」には高い期待は見られなかった。附属校を経験した教員の変化については、他の教員からの支援・指導の助言を求められるようになり、周囲の期待も高まる一方で、保護者への対応力や子どもの特性に応じた指導という点では、あまり変化しないと考えられていた。附属小学校・ふじのめ学級が地域の教育において果たす役割に対する期待は大きく、また附属校を経験した後も授業づくりについて周囲から指導・助言を求められていることが分かった。